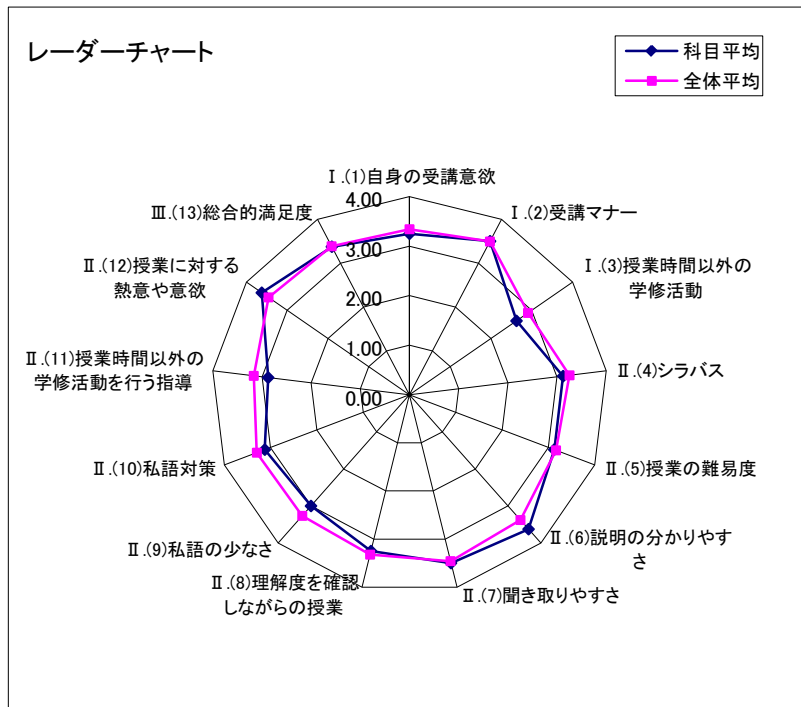
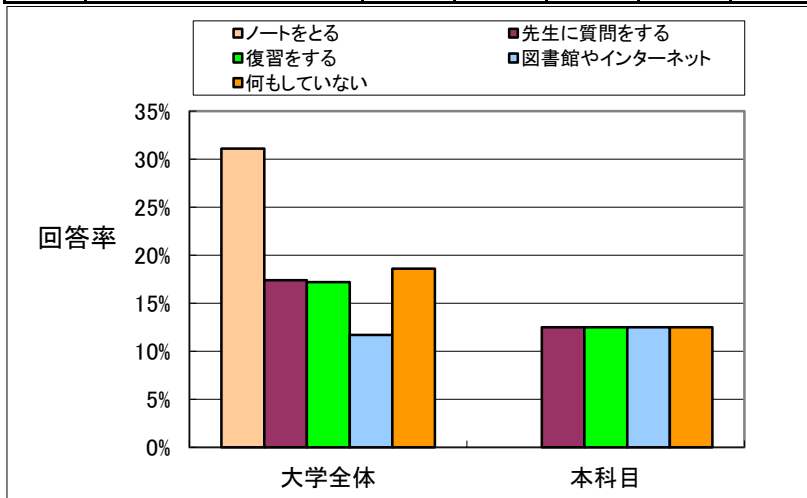


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.25	3.34
	I.(2)	3.50	3.49
	I.(3)	2.63	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.13	3.26
	II.(5)	3.13	3.16
	II.(6)	3.63	3.38
	II.(7)	3.50	3.46
	II.(8)	3.25	3.32
	II.(9)	3.00	3.27
	II.(10)	3.13	3.30
	II.(11)	2.88	3.17
	II.(12)	3.63	3.46
	総合評価	III.(13)	3.38

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.13	3.25
講義内容・方法 II.(4)~(12)	3.25	3.31
総合評価 III.(13)	3.38	3.39

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	3206
科目名	基礎英語 I / 英語コミュニケーション I
教員名	

①授業計画の達成度について

この授業は英文法をイロハのレベルから説いたテキストとそれに沿った内容のe-ラーニングの活用によって進めており、シラバス上でも1回に1ユニット進むことを原則としてはいるが、再履修クラスであるせいもあり、個々の学生により進み具合はまちまちで、なかなかシラバスどおりに進行できていなかったことも事実である。難易度については、実際のアンケートの回答以上に学生は難しいと感じていたのではないだろうか。

②授業の進め方について

テキストに書かれた文法概要とサンプルの例文を見ながらe-ラーニング上の問題に取り組み、英文の穴埋め作業を進めていく過程でのつまづきが相変わらず目立った。そこでe-ラーニング上にある実際の英文を語句1つ1つの意味から文全体の意味まで解説したプリントを独自に作成し、文法と英文そのものの理解度アップとe-ラーニング上での作業の負担の軽減を図った。そのことがアンケートの回答に少なからずプラスに働いた面はあったと思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

実際のアンケート上の数値には上記②で述べた苦心の結果もある程度は影響しているとは言え、学力も学習意欲も高くはない再履修生をシラバスどおりに導いていくことの難しさは、ヒント以上の半ば正解にすぐたどり着けそうなレベルの指導をもってしても、想像を超えたものがある。来年度も彼らをケアしていくことのこうした難しさと向き合う覚悟を決め、テキストの持参をまず徹底させ、今回作成し使用したプリントのような補助教材をさらに充実させて、可能な限りシラバスどおりの進度に彼らを導いていけるような工夫をしていくほかはないであろう。